

16. 1872 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡	
グリッド	L.69-8次	
所在地	東京都府中市美好町3-26-12	
現地調査期間	令和2年12月3日～令和2年12月16日	
面積	85.8㎡	遺物出土量 コンテナ1箱(3袋)
検出遺構	その他の遺構9基(L.69-S.X23~31) [近世]	
調査担当者	西野善勝	
調査従事者	大澤一重(府中市遺跡調査会)、村田博・深水勇次・梅宮誠・秋吉文彦(株)Daian	

1 調査地区の概要

当調査地区は、JR南武線・京王線分倍河原駅の西北西約540m、旧甲州街道から南約230mに所在する。地形的には府中崖線の北約260mの立川段丘上に立地する。武蔵国府関連遺跡の西府・本宿町域内は、古墳時代後期・終末期の古墳群と鎌倉・室町時代の遺構が主体となり、奈良・平安時代の遺構密度は薄い地域である。



第1872-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1872-2図 調査全体図

2 遺構と遺物

その他の遺構

その他の遺構 L 69 - S X 23 ~ 31 の 9 基を検出した。計画建物の掘削深度が、遺構検出面とほぼ同一のため、遺構が保存されると判断した。遺構覆土の掘削調査はせず、平面形状や覆土の特徴から遺構と判断した。遺構の詳細は不明である。

L 69 - S X 23 西側を攪乱に切られる。平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。覆土は未調査である。長軸 1.35 m、短軸 0.4 m 以上を測る。

遺構検出面で古瀬戸陶器碗の破片 (01) が 1 点出土している。(第 1872-4 図)。

L 69 - S X 24 平面形は逆 L 字形を呈する。東側と西側を攪乱に切られる。長軸 3.1 m 以上、短軸 0.75 ~ 1.18 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。

L 69 - S X 25 平面形は南北方向に長い不定形である。中央部を攪乱に切れられ、北側は調査地区外に延びる。南北 1.40 m 以上、東西 0.4 m ~ 1.40 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。

L 69 - S X 26 平面形は南北方向に長い不定形である。中央部を攪乱に切れられ、北側は調査地区外に延びる。南北 1.96 m 以上、東西 1.16 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。

L 69 - S X 27 平面形は半円形である。東側を攪乱に切れられ、南側は調査地区外に延びる。L 69 - S X 28 を切る。南北 0.25 m 以上、東西 0.57 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。

L 69 - S X 28 平面形は南北方向に長い不定形である。西側を攪乱に切れられ、南側を L 69 - S X 27 に、東側を攪乱に切られる。南側は調査地区外に延びる。L 69 - S X 30 を切る。南北 2.85 m 以上、東西 0.4 m ~ 1.25 m 以上を測る。覆土は未調査である。

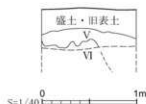
遺物は出土していない。

L 69 - S X 29 平面形は南北方向に長い不定形である。南側を攪乱に切られる。南側は調査地区外に延びる。L 69 - S X 30 を切る。南北 2.45 m 以上、東西 0.6 m ~ 0.75 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。

L 69 - S X 30 平面形は不定形である。西側を攪乱に切れられ、西側・南側を L 69 - S X 28 に、東側を L 69 - S X 29 に切られる。南北 1.9 m 以上、東西 1.4 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。



第 1872-3 図 東壁断面図

遺構№	グリッド	平面形・規模 (m)	備考
S X 23	L 69 (17, 42)	不明, 長軸 1.35 × 短軸 0.4 以上 × 深さ不明	
S X 24	L 69 (17, 42)	L 字形, 長軸 3.1 × 短軸 0.75 ~ 1.18 × 深さ不明	
S X 25	L 69 (14・15, 43・44)	不明, 南北 1.4 以上 × 東西 0.4 ~ 1.4 × 深さ不明	北側が調査地区外。
S X 26	L 69 (14・15, 43・44)	不明, 南北 1.96 以上 × 東西 1.16 以上 × 深さ不明	北・西側は調査地区外。
S X 27	L 69 (14, 41)	不明, 南北 0.25 以上 × 東西 0.57 以上 × 深さ不明	南側が調査地区外。
S X 28	L 69 (13・14, 41・42)	不明, 南北 2.85 以上 × 東西 1.25 以上 × 深さ不明	南側が調査地区外。南東部を S X 27 に切れられ、S X 30 を切る。
S X 29	L 69 (14, 41・42)	不明, 南北 2.45 以上 × 東西 0.75 以上 × 深さ不明	南側が調査地区外。S X 30 を切る。
S X 30	L 69 (14, 41)	不明, 南北 1.9 以上 × 東西 1.4 以上 × 深さ不明	西側を S X 28, 東側を S X 29 に切られる。
S X 31	L 69 (14 ~ 16, 40・41)	不明, 南北 2.0 以上 × 東西 4.4 以上 × 深さ不明	南西側が調査地区外。

L 69 - S X 31 平面形は不定形である。南側は調査地区外に延びる。西側を擾乱に切られる。南北 2.0 m 以上、東西 4.4 m 以上を測る。覆土は未調査である。

遺物は出土していない。

3 まとめ

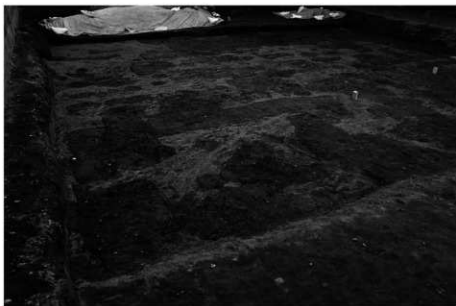
当調査地区は、個人住宅建築に伴い実施したものである。調査を遺構上面の観察に止めたため個別遺構の詳細は不明であるが、周辺での調査成果を合わせて遺構の性格を想定したい。L 69 - S X 23 ~ 30 は、近世の貯蔵穴等の農業関連遺構と考えられる。L 69 - S X 31 は中世の地下式坑或いは近世の地下室の可能性が考えられる。当調査地区の正面道路を挟んで北側に位置する 943 次地区は、鎌倉・室町時代の遺構が主体であり、溝 1 条・地下式横穴墓 7 基・土坑墓 2 基・その他の遺構 12 基が検出されている。当調査地区でも検出された遺構には鎌倉・室町時代の所産と考えられる遺構も含まれる。一方で 943 次地区では奈良・平安時代の堅穴建物跡 1 棟と奈良・平安時代以降の所産と判断される土坑 12 基が検出されているが、当調査地区では同時代の所産と考えられる遺構は検出されなかった。

当調査地区所在地から分梅河原駅周辺にかけての段丘上は、古墳時代後期・終末期の高倉古墳群の範囲であるが、古墳関連の遺構は検出されなかった。今回の調査成果は当調査地区が近世の耕作地であった様相を表していると考えられる。



Na	遺構	器種	口径・器高・底径	特徴
1	L 69 - S X 23	陶器・碗	15.6・(5.2)・-	釉調・浅黄色、胎調・灰白色。口縁・体部少量残存。ロク口成形。中世。古瀬戸。平碗。重ね焼き、体部外面に重ね焼き痕。覆土。

第 1872-4 図 出土遺物



第 1872-5 図
調査地区全景（北東）